

No.140

そしき

昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
～人と技術が織りなす活力ある登米農業～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
E-mail : tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



加工用ばれいしょ (豊里町)



りんごV字ジョイント栽培 (中田町)



なす (石越町)



そらまめ (石越町)

令和5年度のスタートに当たって

所長 佐藤 啓一

新型コロナウイルス感染症の感染法上の扱いが、5月8日から季節性インフルエンザ同等の「5類」に引き下げられました。現地では、5類引き下げを見越し、「第8波」が終息しつつあった本年2月ころから各種行事の対面開催が先行復活しており、総会出席率が8割超えなど過去3年間への反作用が感じられる状況です。しかしながら油断は禁物であり、個人が感染防止の観点から、節度ある対応を心掛けましょう。

さて、営農環境は、円安や不安定な国際情勢の影響による肥飼料等資材・燃油価格高騰が長期化し、生産コストの高止まり状況が改善されず、畜産と米で農業産出額の9割近くを占める当地にとり厳しい状況が続いています。

このような情勢への対応として耕畜連携、農地集積やアグリテックによる省力・低コスト化を進めるほか、6次産業化、食産業等との連携による高付加価値化の取組等が一層求められます。

地域農業の第3の柱として施設や露地での園芸拡大も重要です。県は「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」に掲げる園芸産出額の倍増に取組んでいるところですが、当普及センターは特に5品目（きゅうり、いちご、キャベツ、えだまめ、ばれいしょ）の振興を図っているところです。また、次頁の3つのプロジェクト活動を始めた現地活動を通じ、地域農業振興の支援に取組んで参りますので、よろしく願いいたします。

プロジェクト活動の紹介

No.1 農地整備を契機とした地域営農体制の構築

迫町の古宿地区では、地域住民が誇りとする農村を次世代に継ぐ「地域営農構想」をとりまとめ、農地の大区画化やスマート農業を展開するために、令和6年度の農業競争力強化農地整備事業（受益面積93.4ha）の活用を目指しています。

そこで、地域営農構想を実現するための担い手経営体への農地集積・集約や水稲依存からの脱却、経営体の法人化等を支援します。

○法人設立支援

担い手経営体からの法人設立の機運醸成を支援するとともに、法人志向者の事業構想策定について支援します。

○高収益作物作付支援

担い手経営体の園芸作物導入や栽培技術向上を図るため、加工用ばれいしょの試作や輪作体系の導入検討を支援します。

○担い手会議等の開催支援

地域営農構想の具体化に向けて話し合う担い手会議等の開催を支援します。



古宿地区の農業者代表と関係機関による打合せ

No.2 加工用ばれいしょ栽培技術の向上

登米地域では、実需者との契約による加工用ばれいしょ栽培が行われています。令和3年には「登米ぼてと組合」が発足し、組織的な取り組みが行われるようになりました。栽培に取り組む生産者の人数は年々増加しており、農地整備計画地区での高収益作物の候補として検討されるなど、注目が集まっています。

登米ぼてと組合では、研修会や現地検討会を開催し、安定生産に向けた技術向上に取り組んでいます。水田への作付けのため、湿害や土塊の発生などの課題を抱えています。普及センターでは、関係機関と連携し、登米ぼてと組合の栽培技術向上への活動を支援します。

○技術対策実践支援

調査ほを設置し、栽培ほ場の排水対策や病害虫防除など技術対策の向上を支援し、収量及び品質の安定確保を目指します。

○技術経営評価支援

生育環境のデータを収集・分析するとともに、実施した技術対策や栽培体系の経費や労力等の評価を行い、効果の検証を行います。

○組合活動支援

安定生産に向け、現地検討会等の開催を通じた生産者間の情報交換など、組合活動を支援します。



機械作業による種芋植え付け

No.3 グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実践

昨年度、JAみやぎ登米稲作部会連絡協議会が中心となり、プラスチック被覆肥料削減やメタンガス発生抑制を目的とした「グリーンな栽培体系」の展示ほを設置し、検証を行った結果、生育経過や収量、品質は従来の環境保全米とほぼ同等という成果が得られています。

一方で、「基肥量の削減や追肥の省略」や「肥料や施肥方法に対する生産者の選択肢の拡大」という課題が明らかになりました。そこで、今年度は、JAみやぎ登米や肥料、農機メーカー等と連携し、①～③の計5か所の展示ほを設置して、従来の環境保全米との生育や収量、品質の比較を行うこととしています。また、田植、追肥の実施や生育などの情報を広く発信し、「グリーンな栽培体系」の課題解決と普及を目標に活動していきます。

- ① ペースト肥料展示ほ（減肥及び複数社の田植機を使用）
- ② 非プラスチックコーティング肥料展示ほ
- ③ 堆肥入り特殊肥料+流し込み肥料展示ほ



ペースト肥料田植機での移植

登米市の元気ファーマー



おの でのら よう だい 小野寺 洋 大さん (中田町 果樹)

中田町の小野寺洋大さんは平成30年に就農し、りんごを中心に、ももやなし等の果樹を約2.2ha栽培しています。また、周辺の果樹農家で組織する共同防除組合では防除担当を担っており、次世代のりんご生産者として活躍しています。

小野寺さんは、積極的に新品種へ高接ぎ更新を図るなど、高樹齢木の改植を進め、安定したりんご生産に向けて日々努力を重ねています。また、これまでの樹形に加え、早期成園化・省力化を可能とする新規樹形「りんごV字ジョイント栽培」を令和2年に導入し、徐々に導入面積を増やしています。昨年に初収穫を迎え、成園並みの収量を確保することができました。

「消費者の皆さんに美味しいりんごを届けるのはもちろんのこと、今後はりんご以外の樹種に取り組みむなど色んなことに挑戦していきたい！」と意気込みを語ってくれました。

農業女子会～夢を語り合ってみませんか?～を開催しました

令和5年3月9日、管内の若手女性農業者同士が交流できるネットワークの構築を目的とした「農業女子会～夢を語り合ってみませんか?～」を開催しました。

第1部では、会場となったカフェcirculo（シルクロ）の店主で有限会社三塚牧場の社員である三塚香子氏から、登米市への移住や就農、カフェの開業に至るまでの講話をいただきました。

第2部では、NPO法人ウィメンズアイの栗林美知子氏による「偶然の出来事をうまく活用しよう!」をテーマとしたワークショップを行いました。

交流会では、参加者の就農のきっかけや農家ならではの話題で盛り上がり、新規就農を希望する参加者が先輩女性農業者へ悩みを相談する姿も見られました。この交流会をきっかけとし、若手女性農業者間のネットワークが広がることが期待されます。



三塚香子氏の講話を聴く参加者

きゅうりの環境制御と天敵製剤勉強会を開催

県内最大のきゅうり生産地である登米市では、収量向上や環境負荷低減のため、様々な取り組みが行われています。そのなかで普及センターでは、環境制御機器を導入した生産者に対し、技術改善・向上をテーマに、定期的に勉強会を開催しています。令和5年3月14日に、生産者の施設を会場として、スタートしたばかりの促成作の管理と天敵製剤について、勉強会を開催しました。

勉強会では、きゅうりの生育状況と環境測定機器で計測されたデータを見ながら、管理のポイントや注意点について、ベテラン生産者より解説を頂きました。

また、害虫防除のための天敵製剤について、普及センターから説明を行いました。きゅうり栽培では耐病性品種が普及しているため、天敵製剤と組み合わせて防除を行う事例が全国でも多数存在していることから、実際に導入する施設で使用する天敵や注意点を確認しました。

参加者は、勉強会で得た知識を早速実践したい、と自身の栽培環境と照らし合わせながら方法を考える姿が見受けられ、今作への意気込みを新たにしました。



環境測定データを用いた勉強会

高病原性鳥インフルエンザの発生を防ぐため、鶏舎への野生動物の侵入防止と消毒を徹底しましょう!!

令和5年度登米農業改良普及センター職員・ 主な担当業務紹介

総括次長 田中 正義 【野菜・経営】 県民サービス向上	新 所長 佐藤 啓一 【作物】
---------------------------------------------	-------------------------------------

農業普及指導専門監 佐藤 郁 【野菜・経営】 普及指導計画	新 総括技術次長 加藤 秀逸 【作物・経営】 県奨励施策
-----------------------------------------------	-----------------------------------------------------

地域農業班	
技術次長(班長) 三上 雄史 【作物】 班総括	技術主幹 佐藤 英典 【花き・経営】 農業士
技師 高田万里子 【果樹】 青年農業者、4Hクラブ	技術主査 松原 敦子 【畜産】 女性農業者、生研グループ

先進技術班	
技師 木村 智志 【野菜】 経営、制度資金	新 技術次長(班長) 阿部 香 【作物】 班総括
新 技師 齋藤 健多 【野菜】 農業気象	技術主任主査 高橋 佳 【作物】 種子生産
技師 小堀 海帆 【野菜】 GAP、土壌分析	技術主査 遠藤 実 【作物】 大豆、麦類
	新 技師 藤根 裕太 【作物】 アグリテック

【 】：専門項目
 下 段：主な担当業務

新：令和5年4月1日付けで新たに
 配属になった職員

農薬危害防止運動実施中(6月1日から8月31日まで)

宮城県内では6月から8月にかけて農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなるとともに、農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすい時期です。県では、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底するため、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施します。

普及センターのLINE公式アカウント

農業技術などに関する最新情報を、LINEを通じて配信しています。スマホをお持ちの方はQRコードから登録をお願いします。

- ・ 農業技術情報
- ・ 普及センターだより
- ・ 病害虫発生予察情報
- ・ セミナー、研修会の開催案内
- ・ イベント情報
- ・ オープンラボからのお知らせ

